

四季の室礼

《 七夕の節供 》

室礼（しつらい）は季節や人生の節目に感謝、もてなし、祈願などの心を添えてしつらいます。 室礼を知って頂くことで、より豊かに生活を楽しんで頂けると幸いです。

参考 生活文化 室礼三千



七夕は五節供の一つで旧暦7月7日の称。七夕（なぬかのよ）とは7月7日の夜のことをいいます。いくつかの説があり、中国の「乞巧奠（きこうでん）」と日本の「棚機つ女」の伝承、水で穢れを祓う伝承や夏の収穫感謝祭など、それらが複合して各地の七夕の習慣ができあがったと考えられます。



旧暦の七夕は夏の収穫時期にあたり収穫の感謝祭を行う日でもありました。作物の実りに感謝の気持ちを込めて夏野菜と、この時期収穫した麦の素麺を供えます。

裁縫の上達を願い、穢れを祓う

一年に一度、七月七日に牽牛星（けんぎゅうせい）と織女星（しよくじょせい）が会おうという話はよく知られています。中国では七月七日の夜、織女にあやかっけて裁縫の上達を願う乞巧奠（きこうでん）の祭りが行われました。

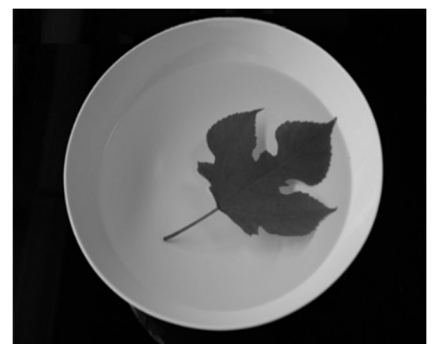
笹竹を立て、五色の短冊に詩歌を書いたり、手習いの上達を願うようになったのは江戸時代、七夕が庶民に広まってからです。五色の短冊は乞巧奠に供えられた五色の糸に由来するものです

七夕竹は「七夕送り」と言ってお祭りが過ぎると川や海に流したことから、七夕はお盆の前行事として穢れを祓う意味もあったともいわれています。

日本のたしなみ帖参考



平安時代の貴族は七夕に「梶の葉」に和歌を書き笹の葉に飾りました。また「梶の葉」を水盤に浮かべ水面に星を写し天に願いを届けました。



七夕に芋の葉の朝露で墨をおろすと字が上達すると言います

写真 生活文化 室礼三千